■文化学園大学様よりショーに関するコメント

4月17、18日、

文化学園大学（渋谷区代々木）

第30回ファッションショー「紡ぐ」

服装学部　服装造形学科（2016年度よりファッションクリエイション学科へ名称変更）

６コースの学生計334人が企画、デザイン、縫製、アクセサリーなどをトータルで手掛けた、93体のコーディネートを発表した。そのうち11体のコーディネートで、バネの装飾を施した作品が発表された。

---------------------------------------------

シーン名：威風凜然（凜の字にご注意ください。）いふうりんぜん

---------------------------------------------

■何人の学生が作品制作に挑戦し、どのような作品が完成したか

服装学部服装造形学科ブランド企画コース2クラス36名で衣装製作。

世界各国の民族衣装と日本の文化を掛け合わせるという今年のテーマの通り、私たちのシーンでは、中国少数民族衣装の華やかさと、日本の鎧の佇まいや繊細なディテールの雰囲気を掛け合わせた。凜と生きる強い女性をイメージし展開した本シーンでは、「女よ、戦うためなら鎧を纏え」というコンセプトのもと、現代に生きる女性へのメッセージも込められている。

■作品を作った学生さんのコメント（バネという素材についてどう思ったか、どんな思いで作品を作ったか）

衣装にはピッタリな雰囲気ではあるが、バネ一つだけを見てみると、こんなに小さいもの同士が合体しあい、ちゃんと形になってくれるのかと不安がよぎってしまうほど。

実際に製作してみると、変幻自在に繋ぎ合わせることができ、様々な交差や直線、わん曲を織り交ぜることの出来る楽しさが、製作意欲を更に増した。

メイドインジャパンならではの繊細さを実感しながらの製作であった。

衣装には、なくてはならない存在で、程よくエッジの効いた無機質な雰囲気の役割をしてくれた。

■お客さんの数、ショーへの反応

2日間で、6620人超の方にご来場頂いた。

どの公演も、ご用意したお席はすぐに埋まってしまい、立ち見の方でも会場に入りきらないほど多くいた。

見に来て下さったお客様や、各雑誌関係者様にもたくさんお褒めの言葉を頂いた。

今年は、テーマコンセプトの通り、兎に角新しいことへ積極的にチャレンジしていったため、不安や葛藤も大きかった。大きな拍手と共に、感動して涙を流されるお客様を見たときは、報われた思いでいっぱいだった。